

公園緑地維持管理の実態分析

大分県緑化推進課 山本 福 弥
西日本短期大学 池田 二 郎

1. はじめに.

近年、都市生活環境の悪化の傾向に伴い都市地域の緑へのあこがれ、要請が非常に強まっており、行政機関でもこれに応えるよう公園緑地の整備に積極的に取り組み、数や面積は増大したがこれに見合う管理費や管理体制が追いつかない傾向にある。

このため、一般市民等（利用者）から維持管理に苦情を呈される状況にある。

今後さらに増大する公園緑地等の維持管理の対応策を検討するため、今回維持管理の実態を分析したので報告する。

2. 調査方法

北九州市公園課ならびに福岡市公園管理課の協力を得て提供された資料および聞き取り調査の結果を取纏めたものである。

3. 結果と考察

現在管理の形態は直営、委託、失対就労者、子供会利用等による方法があるが、昭和53年度両市で実施し

表-1 公園管理費の推移

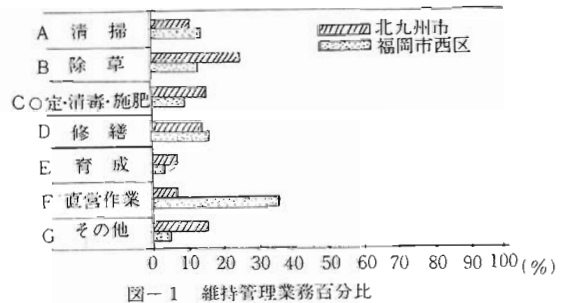
区 分		年 度	47 年 度	48	49	50	51
一 般 公 園	面 積		2.853千㎡	2.920	3.499	3.555	4.066
	㎡ 当り		3.10円/㎡	3.50	4.40	4.60	5.90
児 童 公 園	面 積		733	841	906	963	1.085
	㎡ 当り		45.80	43.20	38.90	38.70	4.450
小 計	面 積		3.586	3.761	4.405	4.518	5.151
	㎡ 当り		11.90	12.40	11.70	9.90	14.10
街 路 樹	本 数		75,520 本	89,789	97,086	211,036	264,036
	本 当り		139円/本	128.40	127.50	126.90	80.80
参 考	人 口		1,051千人	1,042	1,042	1,058	1,060
	1人当り公園面積		3.41㎡/人	3.61	4.23	4.27	4.85
	樹木数		0.07本/人	0.08	0.09	0.2	0.25
	資金指数 (S47:100)		100	131	144	181	216

(単位 千㎡)

ている委託の維持管理業務は図-1のとおりである。

業務内容で清掃、除草、剪定、修繕業務が管理費の大半を占めており、また業務内容も機械化できる性格のものでなく、いずれも人手間に依存する度合いの強い職種であることが判る。ここで福岡市の直営作業が高いのは請負工事に伴う特殊事情によるものである。

次に維持管理費の推移を見るため、北九州市を例にとると表-1のとおりであり、一般公園、児童公園ともに面積は増加し5カ年で1.44倍となっているのに対し、全公園面積の㎡当り管理費はわずか1.18倍にしか上がっていない。このことは公園の新設には予算がつけられるが管理までは余り回ってこないことを表わしており、街路樹も同じである。



さらに公園面積と㎡当り管理費の関係は図-2のとおり、一般公園は管理費が正常にアップしているが、都市の中心にあって利用頻度も高く、また他に比べ㎡当り単価も高い児童公園は、面積で1.48倍と一般公園とほぼ同じ伸びに対し、㎡当り管理費は年々相対的に低下傾向を示しつつあると思われ、5カ年前の管理費をも下回る結果となっている。通常面積の増加に伴って管理費も増加するのが普通であり、これでは利用者から苦情を呈いされるのも無理からぬ一因と思われる。

また、都市における貴重な空間利用ということで道路緑化が進められているが、街路樹本数と1本当りの管理費の関係は図-3のとおりである。総本数は5カ年で3.5倍の増に対し、1本当りの管理費は児童公園の管理と同じく年々低下しており、特に51年度の落ち込みが激しく5カ年前の約半と非常にダウンした結果になっている。

50年度からの本数増は、街路の緑化が点から面へ移行し、樹間に植樹帯を設置し低木を植栽した結果と思われるが、それにしても5年前の管理費をも下回る結果は正常ではない。

最後に賃金指数と人口一人当り管理費(表-1の管理費を対象に)の関係は図-4のとおり賃金指数は、47年度を100とすると51年度で216と約2倍になっている。人口はほぼ横ばいであるが人口1人当りの管理費を対比すると175と賃金の上昇について行けない結果となっている。

前述のとおり公園緑地の維持管理は手作業に頼る率が高く、管理費の中で賃金の占める率が高いため、せめて賃金の上昇なみに管理費を上げていくことが望まれる。

4. まとめ

いずれの例でも判るとおり、維持管理が面積等の増加に十分対応できずにいる結果を表わしているが、快適な環境を維持して行くには、只、公園緑地を新しく造ると言うだけでなく、以後の維持管理こそ大事であり、むしろ無いがしろに出来ない問題である。

維持管理費の伸び悩みは予算的制約も一因と思われるが、樹は植えてさえしておけば後は一人で大きくなるんだと言う維持管理についての関心の無さが大きな原因と思われる。

今後、維持管理は公園緑地の増加につれ増えていくことが予想されるが、良好な環境を維持するためには管理者、利用者共に維持管理についてもっと関心を持つようにすべきである。また設計をする側も設計の段階で、特に維持管理、修理を考えての樹種の選択ならびにある程度の施設の規格化が望まれる。

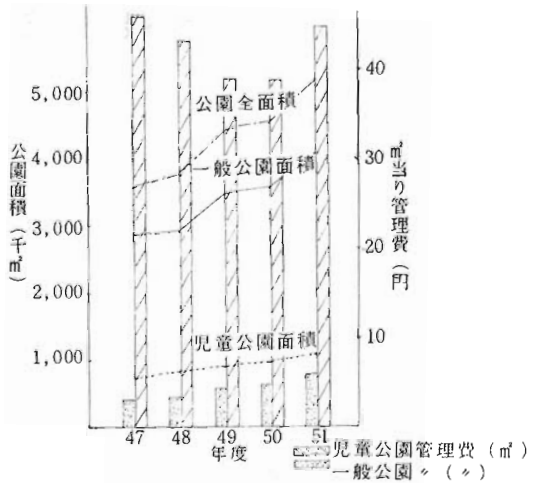


図-2 公園面積と管理費の比較

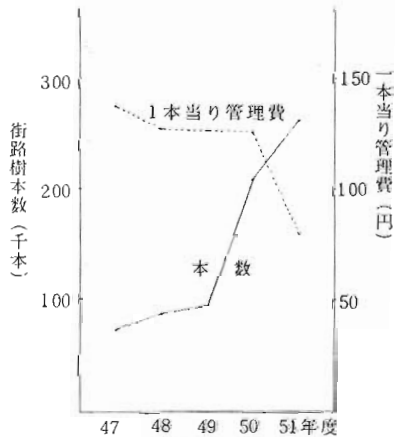


図-3 街路樹と管理費の比較

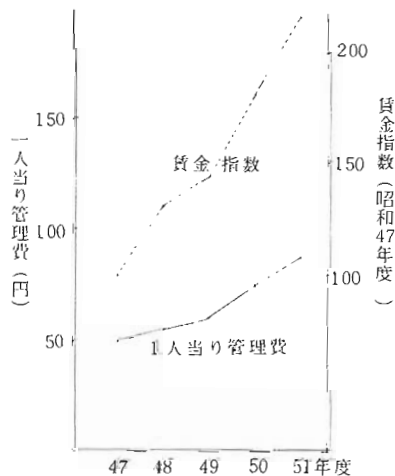


図-4 賃金指数と管理費の比較